

ジェンダー役割と規範の変化 ～タイ東北部を事例として～

甲斐田 きよみ*

[要旨] 社会的経済的状況の変化により、夫が稼ぎ手で妻が家事育児を担うというジェンダー役割は変化している。ジェンダー役割が変化することに伴い、ジェンダー規範も変化するのだろうか。本稿は、急激な経済成長を遂げたタイを事例に、現在40代から50代の女性を対象にフィールド調査を実施し、ジェンダー役割や規範に関する認識と行動の抽出を試みた。

1. はじめに

発展途上国における開発協力事業において、女性のエンパワーメント支援はSDGs（持続可能な開発目標）の1つでもある重要な課題である。女性を対象とした収入向上支援や職業訓練など、様々な女性のエンパワーメント支援策が実施され一定の効果を上げている。女性が現金収入を得る機会も増し、「男性は稼ぎ手で女性は家事・育児の担い手」というジェンダー役割は変化している例が散見されるようになった。

ジェンダー役割とは、ある社会の中で「ジェンダー規範」に従って、どのように行動し、考え、感じるべきかに関わり、当該社会の中で作られる。相応しくない行動は社会において承認されず、例えば母親が子どもの世話を怠ったり、父親が家族に必要な物を供給しなかったりすれば、コミュニティから蔑視される。ジェンダー役割はコミュニティ内部でも多様であり、また、時代を超えて変化するものである¹⁾。

では、ジェンダー役割を規定している「ジェンダー規範」は、ジェンダー役割が変わることによって変化するのだろうか。「ジェンダー規範」が変化するならば、どのような契機で、どのような経過で変わっていくのだろうか。本稿ではタイ東北部を事例とし、草の根レベルの女性達が、どのような「ジェンダー規範」を認識しているか、過去と比較して変化はあるのか明らかにする。ジェンダー規範・役割を検討し、女性の発言・行動から女性達のニーズ・関心を分類する。そしてジェンダー規範に挑戦する認識や行動を発現している女性にどのような特徴があるか、経済活動への従事と関わりがあるか検討する。

2. ジェンダーニーズ／関心とジェンダー規範

モーザは、女性が社会的に受け入れている役割を通して気付くニーズである「実際のジェン

* 助教／国際開発学

ダーニーズ」と、社会の中で女性が男性に従属する立場にあるために生まれたニーズである「戦略的ジェンダーニーズ」という分類をしている²⁾。これはモリニューが实际的ジェンダー関心、戦略的ジェンダー関心と述べたものを基に「関心」を「ニーズ」に変換することが開発計画に必要と捉えたためである³⁾。またカビアは实际的ジェンダーニーズと戦略的ジェンダー関心に分けている。本論ではニーズか関心かという議論には触れず、ニーズと関心を併記し、「实际的」「戦略的」の分類に注目する⁴⁾。

实际的ジェンダーニーズ／関心とは、既存の性別役割分業や女性の従属に挑戦するものではなく、女性が社会的に受け入れている役割を通して気付くニーズ／関心で、性別役割分業や社会における女性の従属的な立場から生じているが、それらを変えようと挑戦するものではない。例えば水の供給や保健衛生、家事や育児に関連するニーズ／関心が挙げられる。一方、戦略的ジェンダーニーズ／関心とは、女性が男性と平等の地位を得ること、現在の男女の役割分担を改め、女性が置かれている従属的地位を覆すことを求めるものである。例えば土地・財産の権利の制度的差別構造の除去、政治的平等の確立、出産に関する選択の自由などを求めるというニーズ／関心が挙げられる⁵⁾。しかし、ジェンダー平等という目標は、社会的経済的・心理的サポートを、男女の不平等な関係を内包する家族に頼っている多くの途上国の女性には難しい⁶⁾。

このような「实际的」「戦略的」という明確な区分に対し、ロングウェは、開発への介入は实际的ニーズも戦略的ニーズも含んでおり、实际的ニーズから戦略的ニーズへの前進は、開発への介入がエンパワーメントを促す潜在力を含んでいる程度によるという⁷⁾。ウェイリングは「戦略的ニーズ」が「实际的ニーズ」を区別することは経験的事実に基づいておらず、また前者を“進んだもの”と見なすことはおかしいと指摘している。現実には、女性達は生存のためや外出の機会を得るために、男性を食べ物や他のサービスで満足させ、より大きな移動の自由を確保しようとするという例を挙げている⁸⁾。

ヤングは「変容可能性」という概念を示し、変化を生み出す大きな潜在力を含む实际的ニーズを見極めるために、活用できる概念であると説明している。そして戦略的関心に繋がるような介入を可能にする状況を与える实际的ニーズの充足や、戦略的ジェンダー課題への疑問が同時に生じるような方法で、实际的ジェンダーニーズの充足をはかることが変容につながるという⁹⁾。カビアはヤングの「変容可能性」という概念を、实际的ニーズと戦略的関心を橋渡しする概念で、セルフエンパワーメントの過程に必要な基盤を準備する助けとなるものと説明している¹⁰⁾。モーザはアジアの女性組織の例を挙げ、保健、雇用、基本的サービスの提供など具体的な实际的ジェンダーニーズの充足から始め、徐々にこれらを特定の戦略的ジェンダーニーズ達成の手段としてうまく利用していると指摘している¹¹⁾。

本稿では、草の根レベルの女性達がどのようなニーズ・関心を持ち、どのように現状を認識し、行動しているのか、女性の状況、ジェンダー規範・役割を検討し、女性達の発言・行動から分類を試みる。また、实际的ニーズ・関心を超えるようなニーズ・関心だが、戦略的ニーズ・関心として表れていない場合でも、それらを小さな変化として認識し、そのようなニーズ・関

心を満たすような支援のあり方が検討できるよう「変容可能性」に関わることが、女性の言葉や行動にどのように現れているのか、その言動の解釈を試みる。そのための分析枠組みとして下記の表1を設定する。

実際のジェンダーニーズ/関心、変容可能性に関するニーズ/関心、戦略的ジェンダーニーズ/関心の概念を基に、女性のニーズ/関心、状況の認識、実際の行動を分析していく。まず、実際のジェンダーニーズ/関心を、①既存の性別役割分業・ジェンダー規範に従う、②ジェンダー不平等な、女性が男性に従属している関係を認識しているが、それを受容すること、に関わるものに分け、更に①をa.女性が女性自身の役割・規範に従う、b.女性が、男性が男性自身の役割・規範に従うことを期待するもの、に分ける。次に、変容可能性に関するニーズ/関心を、③既存のジェンダー規範に挑戦すること、④男性の性別役割を女性が担うこと、に分ける。最後に、戦略的ジェンダーニーズ/関心を、⑤女性が、男性が女性の性別役割を担うことを期待すること、⑥女性が、男性に従属している関係の変革を期待すること、に分けて枠組みを設定する（表1）。

表1 女性のニーズ/関心、状況の認識、実際の行動の分析枠組み

| | | | ニーズ/ 関心 | 状況の 認識 | 実際の 行動 |
|-------------------|---------------------------|---------------------------------|------------|-----------|-----------|
| 実際のニーズ/ 関心 | ①既存の性別役割分業・ ジェンダー規範に従う | a.女性が女性自身の役割・規範 に従う | | | |
| | | b.女性が、男性が男性自身の役 割・規範に従うことを期待 | | | |
| | ②ジェンダー不平等な力関係を認識し受容 | | | | |
| 変容可能性への ニーズ/関心 | ③既存のジェンダー規範に挑戦 | | | | |
| | ④男性の性別役割を女性が担う | | | | |
| 戦略的ニーズ/ 関心 | ⑤男性が女性の性別役割を担うことを期待 | | | | |
| | ⑥ジェンダー不平等な力関係の変革を期待 | | | | |

(筆者作成)

3. 調査対象地の概要

本研究はタイ東北部を事例とした。タイは1970年代以降、著しい経済発展を遂げている。1990年代後半のアジア通貨危機の影響や、都市部と農村部の社会的経済的格差という負の側面があるものの、経済発展の結果、過去50年ほどで人々の生活は大きく変化している。1960年代から1970年代に生まれた人々にとって、一生の間にこの大きな変化を体験したと言える。農業を主要な生業とした生活から、賃金労働により男性だけでなく女性も現金収入を得る機会を持ち、さらに移民労働による送金に依存する生活と変化する中で、性別役割分業も変化したことが想定されるため、ジェンダー規範の変容を検討するには適切な対象地である。

現地調査はタイ東北部のウドンタニ県クチャップ郡の3村を対象とした。ウドンタニ県の人口

は128.8万人で男性48.9%、女性51.1%と人口の男女差は大きくない¹²⁾。クチャップ郡はウドンタニ中心部から車で1時間ほど西にあり、人口5.5万人である。この地域の主要な産業は農業で、コメ、キャッサバ、サトウキビ、ゴムの栽培が盛んである。また県外や国外へ移民労働に出る人が男女とも多い。対象地では1990年代後半に、青年海外協力隊員の支援を受けながら女性たちがグループを作り、一村一品運動の製品として地域の伝統的な織物を製作・販売していた¹³⁾。この一村一品のグループ活動をしていた女性17人を本稿の調査対象とし、2016年12月～2017年1月と2017年3月、2017年8月に現地調査を実施した。女性17人に対する個別インタビュー（タイ語の通訳、タイ語で対象者自身による自由記述、通訳が日本語に翻訳）による調査を実施した。

4. 調査の結果

(1) 婚姻に関する認識の変化

調査対象地域の住民はタイ人が大多数であるが、タイ人は伝統的に結婚後に妻の実家に夫が居住し、妻の実家の畑仕事を担うことが期待されてきた。現在では畑仕事の代わりに都市部や海外で移民労働を行い、送金によって経済的貢献をすることが期待されている。夫は世帯の家長として世帯を代表し、経済活動を担い、物事を最終決定する存在とみなされていたが、現在では妻も経済活動を担い、世帯内での意思決定は「家族で納得するまで話し合う」あるいは「妻が決定する」と変化している。一方、妻は世帯の収入と支出を把握し家計管理を担う存在と認識されており、現在でも変わっていない。

調査対象者の女性たちの生活はここ20年間で大きく変化した。現在40代から50代の女性達は、20代から30代の頃に一村一品運動の製品として伝統的な織物を製作し、販売するグループを作っていた。当時は、夫の許可がなくてはグループ活動への参加が難しかったり、製品の販売のためにウドンタニ県の中心部に外出することが難しかったり、離婚や未婚でいることがネガティブに捉えられていたりという経験をしている。しかし、現在では女性が村の外へ出かけたり、収入を得る仕事をしたりする機会が増え、女性に対する見方は大きく変化したと認識していた。女性はこうすべき、男性はこうすべきというジェンダー規範の認識が、人はこうあるべき、親・子どもはこうあるべきと変わり、ジェンダーに関わらず、配偶者として、親として、子どもとして、人として、という分類で語られていた。また、昔は結婚することは当然とみなされ、離婚すると夫妻のどちらに非があったのかと噂話にされネガティブに捉えられていたり、結婚の登録を役所にするため離婚時の手続きが煩雑だったり、婚姻は人生の重要な出来事と認識されていた。しかし現在では、結婚登録をしないで事実婚を選ぶ夫妻も多く、離婚の際は手続きが必要なかったり、男女ともにバイクや車で移動する範囲が拡大したり、携帯電話でコミュニケーションが容易になったりしたことから、パートナーを探すことが簡単になった。婚姻は不安定な関係性となり、相手に不満があれば関係は解消されるため、その結果、婚姻を重視しなくなり、結婚、離婚、未婚でいることは個人の自由だと捉えられていた。

(2) 女性のニーズ／関心、現状認識と行動

調査対象者17人の女性達のニーズ／関心、現状認識と行動を、前節の分析枠組みを適用し、既存のジェンダー役割や規範に対して変化があるか分析する。

実際的ニーズ／関心

実際のジェンダーニーズ／関心は、既存の性別役割分業やジェンダー規範に従うことと、ジェンダー不平等な力関係を認識しているが受容していることに関連する。

表2 女性の実際的ニーズ／関心

| | | ニーズ／関心 | 状況の認識 | 実際の行動 |
|-------------------|-----------------------|--|---|-----------------------|
| 実際的 ニーズ／ 関心 | ①既存の性別役割分業・ジェンダー規範に従う | a. 女性が女性自身の役割・規範に従う ●夫と子どもの世話をきちんとしたい ●栄養のある食事を家族に与えたい | ●妻が夫より稼ぐと、リーダーとしてふるまい離婚につながるので、夫より稼ぐべきでない | ●妻が料理・洗濯・子どもの世話を一人でする |
| | | b. 女性が、男性が男性自身の役割・規範に従うことを期待 ●夫に一人で稼いで欲しい ●夫に家族の重要なことは決めてほしい | ●夫は家長なので女性より多く稼ぐべき ●夫が家族のリーダーとして全てに責任を持つべき | 該当なし |
| | ②ジェンダー不平等な力関係を認識し受容 | ●昔は、夫に不満でも良好な関係を維持しようとした | ●昔は、夫は妻の意見を聞かなかった | ●昔は、妻は不満があっても夫に従っていた |

(女性17人への個別インタビューより抜粋 筆者作成)

変容可能性へのニーズ／関心

変容可能性へのニーズ／関心は、既存のジェンダー規範に挑戦すること、女性が男性の性別役割を担うことに関連する

表3 女性の変容可能性へのニーズ／関心

| | ニーズ／関心 | 状況の認識 | 実際の行動 | |
|-----------------------|----------------|-------------------------|--|-----------------------------|
| 変容可能性への ニーズ／ 関心 | ③既存のジェンダー規範に挑戦 | ●夫の収入に依存したくない | ●妻の収入が夫より多くても構わない | ●夫とは違う政党を支持している |
| | ④男性の性別役割を女性が担う | ●夫の収入が多くても、妻も収入を得る仕事が必要 | ●肉体労働や工事の仕事のような体力を使う仕事であろうと、女性は男性同様に携われる | ●何に支出するか家族で話し合うが、最終決定は自分が行う |

(女性17人への個別インタビューより抜粋 筆者作成)

戦略的ニーズ／関心

戦略的ニーズ／関心については、女性の性別役割を男性が担うことを期待することと、ジェンダー不平等な力関係の変革を目指すことに関連する。

表4 女性の戦略的ニーズ／関心

| 戦略的 ニーズ／ 関心 | ニーズ／関心 | 状況の認識 | 実際の行動 |
|---------------------|--------|------------------------------|-------|
| ⑤男性が女性の性別役割を担うことを期待 | 該当なし | ●妻が家を留守にする際は、夫が子どもの世話や料理をすべき | 該当なし |
| ⑥ジェンダー不平等な力関係の変革を期待 | 該当なし | ●今は男女平等なので、女性が村長やリーダーを務めるべき | 該当なし |

(女性17人への個別インタビューより抜粋 筆者作成)

分析枠組みを3つのニーズ／関心に分け、個別インタビューで得られた回答を分類した。調査対象地区の女性達のニーズ／関心と現状認識や行動は、「既存の性別役割分業を遂行すること(例:家族の世話、夫が稼ぎ手であるべき)」に関する認識や行動が現れていた。一方で「ジェンダーによる不平等な力関係を受容すること(例:夫に不満でも良好な関係を保つ)」に関しては、昔のことを語る文脈では現れるものの、現在の認識や行動には見られなかった。また、「既存のジェンダー役割認識に挑戦すること(例:夫の収入に依存しない、夫の意見に従わない)」や、「男性の性別役割を担うこと(例:女性は男性が携わる仕事を担える、世帯の最終決定をする)」に分類できた。しかし、「女性の性別役割を男性に担ってもらうこと」「ジェンダーによる不平等な力関係の変革を目指すこと」に関しては、「男性が家事をすべき」「女性が村長やリーダーを務めるべき」と、「～すべき」という認識はみられるが、ニーズ／関心や実際の行動は見られなかった。

(3) ジェンダー規範に挑戦する女性の特徴

前節での分類から、ジェンダー規範に挑戦する傾向のある女性の事例を取り上げる。

事例1 N氏 (52歳、15年前に離婚、コメ販売会社代表)

昔は17歳から18歳ころに女性は結婚するもので、大人が結婚相手を選んでいた。結婚後、夫は女性の両親と一緒に住み、夫は畑の労働力となることを期待されていた。夫の両親からはいろいろな文句を言われた。昔は離婚の原因の一つは、夫の両親が息子を心配して妻の実家や妻に不満を告げることだった。私と夫は、初めはお互いに愛情もなかったが、一緒に生活して困難も喜びも一緒にし、助け合ってお互いに好きになった。しかし20年たって、夫が別の女性と浮気し別れた。村では離婚はネガティブにみられたので、子どもを立派に育てることを目標にし、子どもはバンコクの大学で学ぶことができた。私は離婚後、お米を売買するビジネスを立ち上げ、今では周辺の14の村からお米を買い集め加工し、ウドンタニの街中でも売っている。

従業員は10人雇い、年間を通して給料を支払えるほどビジネスは上手くいっている。昔はウドンタニに行くのに、トラックにすし詰め¹にされていた。裸足だった。バナナの皮をお皿にして、小魚、カエル、ハーブをおかず²にしていた。巻きスカートをはいていた。洋服は都会の市場にしかなかった。綿織物の服で行くと、田舎から来たとみられるのが嫌だった。今ではそんな風に思わず、むしろ織物の服を誇りに思う。もう男性に頼るのはやめた。自分で稼いで生きていける。そういう女性が増えてきて、男性も女性の話³を聞くようになった。古い人は男性が上に立つリーダーで女性は従う⁴と思っている。村の人はこういう考えの人が多⁵い。私は自分で稼げることを誇りに思っている。男も女も同じ。体力は男性が強いけれども、家のことや家事、育児のことなど女性のほうが詳⁶しい。（2016年12月、2017年3月N氏からの聞き取り。下線は筆者）

事例2（S氏 46歳 既婚、自治体勤務）

19歳で結婚した。夫は別の村の出身で、結婚後4年間は私の両親と同居していた。その後、敷地内に家⁷を建て、今でも私の両親の隣に住んでいる。8年前に自治体の職員となった。自分で稼いでいることを誇りに思う。収入の額は関係なく、収入があることが誇りに感じる。夫の収入より妻の収入が多⁸くても別に構わない。女性が稼ぐのが上手だと思われる。かっこいい、すごいことだ⁹と思う。収入は夫妻で一緒に¹⁰していて、私が管理している。夫は酒、たばこ、かけ事はしない。夫が現金を必要とするのはガソリン代や車の修理ぐらいで、その都度、私がお金を渡している。女性のほうがお金の使い方が上手だ¹¹と思う。夫は人と話すことが好きではなく、他の人とのやり取りが苦手です。私はそういうことができるので、私が世帯主だ¹²と思う。世帯主とは、いろんなことができる人。考えるだけでなく行動できる人。実行が伴う人のことを指します。この家では私が世帯主です。昔は、女性は家にいるばかりでした。しかし、今は、女性の立場、役割が上がりました。政治や仕事など男性と同じです。今は政府も女性にリーダーの機会を提供しています。（2016年12月、2017年3月S氏からの聞き取り。下線は筆者）

事例3（L氏、44歳、既婚、農家）

家族の収入は一緒に¹³していて、家族全員の分を自分が管理しています。子どもからの送金も自分が管理している。夫はタバコも酒も¹⁴しない。お金を使うことがなく、物を買うことがない。結婚して20年になるが、ずっとそんな感じでした。夫は稼ぎをすべて自分に渡してくれる。夫がお金をせがむことはなく、何を買うかは自分がやりくりしています。畑で穀物、野菜、果物を栽培しています。野菜や果物は村の市場で毎日売って、毎日少しずつ収入があります。お金を得られると家族の必要なものを買えます。昔は現金収入の機会がありませんでした。ゴザや織物を作るくらいでした。20年前に一村一品運動の製品として織物をグループで製作・販売していたときは、グループ活動が盛んでしたが、町に出かけることを反対する男性もいました。私たちも町に出かけることが珍しく、服装で田舎の人と扱われたり、方言が恥ずかしくなったりしました。昔は女性の役割が家の外にはなく町に出かけることがありませんでしたが、今

では女性の役割が上がって女性の社会進出が進んできました。女性は教育を受けて家にいるだけではないのです。女性がコミュニティのリーダーになっても構わないと思います。男女平等ですから。夫より稼ぐ妻がいてもいいですし、家族みなで助け合えばいいと思います。家族の中で誰が支配的かということはなく、みなで話し合います。過去20年で村の生活は変わり、様々なことを体験して、女性に対する規範が変わりました。女性の役割が高まり、男女平等です。

(2016年12月、2017年3月L氏からの聞き取り。下線は筆者)

上記の3事例に共通することとして、まず女性自身が経済活動に携わり現金収入を得ていることが挙げられる。事例1は自身で起業、事例2は自治体職員、事例3は農家と経済活動は異なるものの、自身で収入を得て、世帯員の収入も合わせて自身が管理している。調査対象地域では世帯員の収入は妻が一括管理する慣習があり、妻が収入を得ていない場合でも夫の収入は妻が管理している。しかし「自分で稼いで生きていける」「自分で稼いでいることを誇りに思う」「お金を得られると家族の必要なものを買える」と、自身が収入を得ることに価値を置いている。次に、「昔は女性が町に出かけることを反対する男性もいた」「昔は大人が結婚相手を決めていた」「昔は、女性は家にいるばかりでした」など、20年頃前の自身が若いころは女性が物事を決めたり自由に行動したりすることは難しかったと認識しており、現在では「男も女も同じ」「今は女性の立場、役割が高まった」「女性に対する規範が変わった」と、女性を取り巻く状況が変化したと認識している。さらに、「もう男性に頼るのはやめた」「私が世帯主です」「家族の中で誰が支配的かということはない」と、男性が家長というジェンダー規範と異なる認識を持っている。

5. おわりに

タイでは急激な経済発展に伴い、本稿で調査対象とした40代～50代の人々の生活状況は一生の間に生活状況が大きく変化した。農業を主要な生業とする生活から、賃金労働者として現金収入を得る機会が男性だけでなく女性にも拡大し、「男性が稼ぎ手」というジェンダー役割は変化した。男女とも移動範囲が拡大したり、携帯電話の普及によりコミュニケーションがとりやすくなったりしたためパートナー探しが容易になり、婚姻に拘束されない関係性を築くことも珍しくなくなり、父権的な家長がジェンダー規範を強化・持続させることもない。女性自身が経済活動に携わり現金収入があること、婚姻が権力関係を生み出さないこと、そして社会的経済的政治的な活動に女性が参加する機会があり、「男女平等なので当たり前」と認識されていることが、ジェンダー規範を緩和している。男性側の認識について、今後の検討課題としたい。

(本研究は、科学研究費助成事業 研究活動スタート支援 (課題番号16H07155, 研究代表者 甲斐田きよみ) の補助金の交付を受けて行った研究成果の一部です。)

注)

- 1) Parker, A.R., Lozano, I., and Messner L.A. (1995). *Gender Relations Analysis: A Guide for Trainers, Save the Children*.
- 2) O.N.Moser, C. (1993). *Gender Planning and Development*. London, Routledge
- 3) 脚注2に同じ
- 4) Kabeer, N. (1994). *Reversed realities : gender hierarchies in development thought*. London ; New York, Verso
- 5) 脚注2に同じ
- 6) Singh, S. (2007). "Deconstructing 'gender and development' for 'identities of women'." *International Journal of Social Welfare* 16(2): 100-109
- 7) March, Smyth, et al., Eds. (1999). *A guide to gender-analysis frameworks*. Oxford Oxfam
- 8) Wieringa, S. (1994). "Women's Interests and Empowerment: Gender Planning Reconsidered." *Development and Change* 25(4): 829-848
- 9) Young, K. (1988). *Reflections on Meeting Women's Needs. Women and Economic Development Local, Regional and National Planning Strategies*. K.Young. Oxford, U.K., Berg Publishers limited
- 10) 脚注4に同じ
- 11) 脚注2に同じ
- 12) タイ国勢調査(2010) <https://citypopulation.de/php/thailand-admin.php?adm2id> (2017年4月29日アクセス)を参照
- 13) Shiko Momose (2001) "Women's Empowerment and Male Overseas Migration: The Case of Villages in Northeast Thailand" *Institute of Social Studies*

(2018.9.28受稿, 2018.11.14受理)